

個人用書籍管理支援システム

研究系卒研

1023107 関口 翔太

(指導教員 速水 治夫 教授)

1. はじめに

書籍は毎月多数発売されている。その結果、完結していない小説や漫画が増えてしまい、書店にてどこまで持っているのか忘れてしまうこともある。特に新刊の出るペースが遅いとより忘れてしまっている可能性が高くなる。また、中古書店にて書籍を購入する際にとびとびで購入していると所持している巻と所持していない巻が曖昧になってしまうため、同じ書籍を2度購入してしまう可能性がある。

本研究ではユーザが所有している書籍の管理を行い、2度購入することを防止すること、書籍情報を共有することを目的とした書籍管理支援及び書籍情報共有システムを提案する。

2. 提案システム

本システムは、書籍を多数所有する人を対象とする。本システムは、所有している書籍を管理するとともに、書籍情報を共有して試し読みの機会を作ることを目的としている。システムの概要を図1に示す。

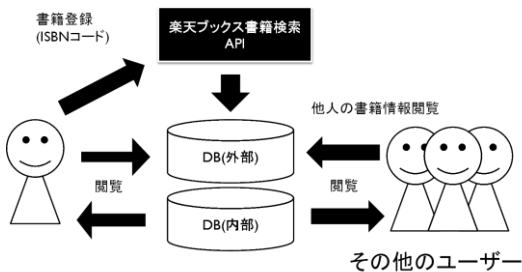


図1 システム概要図

2.1 個人用書籍管理

ユーザは名前を登録し、所有している書籍はISBNコードを用いて楽天ブックス書籍検索 API^[1] を通して書籍情報を取得し登録する。ISBNコードの入力には、手入力またはバーコードリーダーを用いる。また、既に登録された書籍を再び登録しようとする図2のように表示され、2重登録を防止する。登録した書籍は、一覧となってリスト表示される。

2.2 共有書籍管理

本システムの全ユーザが登録した書籍のリスト表示をする。

2.3 書籍詳細表示

ユーザは2.1または2.2で表示された書籍リストを

タップすることで書籍の詳細を見ることができる。個人画面からの詳細表示では書籍情報のみ表示する。共有画面からの詳細表示では書籍情報のほかに登録したユーザ名が表示される。



図2 既に持っています

3. 評価実験

Android 端末を所有する書籍を読む5人を対象に、実際にシステムを使用してもらい4段階評価のアンケートを実施した。主要な実験結果を表1に示す。

表1 評価実験結果

評価項目	平均評価
システム画面は見やすいか	3.2
自分の書籍が管理できそうか	3.2
他人の所有している書籍は確認しやすいか	3.2

4. おわりに

評価実験より、おおむね良い評価が得られ、本システムは所有している書籍情報を管理し、共有することができたといえる。

今後、書名検索や作者名ソートなどの機能を追加することで、書籍を管理したい人にとってより長期的に利用しやすいシステムを目指す。

参考文献

- [1] 楽天 WEB SERVICE,
<http://webservice.rakuten.co.jp/>
- [2] 日本図書コード管理センター,
<http://www.isbn-center.jp/>